

特別座談会

高品質なものづくりと日水協検査事業



明和工業 代表取締役社長

関根 壮至氏



トミス 取締役営業本部長

龍 誠氏



城北工業 代表取締役社長

前田 義克氏



西戸崎興産 執行役員関東営業所所長

河野 隆治氏



川崎機工 代表取締役社長

川崎 信明氏



日本水道協会 検査部長

平本 重夫氏

関根(明和工業) 当社は最も多く生産している水管橋のほか、空気弁などバルブ類、緊急用貯水槽の製造販売、それから仮配管のレンタルサービスを行っています。仮配管は老朽管布設替え時の切り回し、あるいは災害復旧の際に緊急的に配管を布設する時に使われており、ステンレス管をお

用しています。また、特に人材育成については一言で語り尽くせないほどの取組みをなされているのだからと思います。ものづくりは人づくりとも言われ、当協会としても技術職員の専門性を維持向上させることが大変重要なテーマになっています。水

金網を取りつけて回転させながら水洗・選別するもので、粒度規格や洗浄濁度などお客さまのさまざまなご要望にお応えするようにしています。高品質を維持するための創意工夫としては、日常の製品検査はもちろんのこと、洗浄プラントの金網や洗浄水を定期的に点検しています。また、工場内の道路や作業場、原材料置場などの環境整備を毎日実施し、常に清潔な状態を維持するように心がけています。終業時にはミーティングを行うことで、生産工程における改善点や良い点を常に打ち合わせし、ブラッシュアップしているところで

質を上げています。当社は今年で創業50周年を迎えたのですが、先代の工場長が大変厳しい方で、多くの弟子を育ててくれました。工場は30代40代の溶接工が多く、いわゆるベテランはあまり多くないのですが、中堅どころの技術者が大変厳しく指導を受けたことで、しっかりと技術が受け継がれており、溶接などの品質レベルは非常に高いと思っています。品質管理体制として、工場内に品質管理課、検査課を配して、日本水道協会の検査を受けるとともに、全工場で品質会議を毎月開き、品質上の問題が起きれば報告し、工程やコストも含めた改善案を検討しています。例えば水管橋の製造では、本社工場のある新潟は冬季に気温が下がり、塗装の乾燥に苦慮するのですが、工場内への冷気侵入を極力防ぐ自動シャッターを導入するなど、塗装を早く乾かすための設備投資を行っています。工場の現場社員が自主的に考えて取り組んで

品質に関する情報は、社内だけでなく、お客様からも積極的に共有されています。また、お客様からの問い合わせには、迅速に対応できるように努めています。品質に関する情報は、社内だけでなく、お客様からも積極的に共有されています。また、お客様からの問い合わせには、迅速に対応できるように努めています。

平本(日本水道協会) 皆さんのお話を大変興味深く聞かせてもらいました。各社とも、製造工程などさまざまな工夫を凝らして、しっかりと安定したものづくりが行われています。その部分についてはこちらと運営されているのを感じました。

川崎(川崎機工) 当社は押輪や異形管関係、さらに緊急給水関係の装置を製造販売しています。このうちK形の押輪やゴム輪、異形管類、それと特殊異形管、ゴム輪の芯すれによる漏水を防ぐために独自開発した同軸押輪について日本水道協会の検査を受けています。原材料となる鋳物は協力会社のJIS認定工場をつくっており、なおかつ日本水道協会の検査も受けています。内面塗装や外面塗装についても、同様に検査を受けているところです。

平本氏 「ここ数年で急激に受注が伸びているところ。運転免許制度改正に合わせて車両の総重量設計や、寒冷地でも配管が凍って水が出ないということがない車両づくりなど、さまざまなニーズに合致した製品開発に取り組んでいるところです。前田(城北工業) 当社はいわゆる塗装屋で、粉体塗装をいち早く取り入れて、水道関係のバルブや直管の内面塗装に携わっています。品質に関しては昨今水道に限らずお客さまからの要求が厳しくなっています。塗膜厚などは数値データで出せるのですが、測る箇所が1つずれるだけで、簡単に数値が変わりますし、ピンホールに関することもピンホール

持続可能な水道事業を次代に引き継ぐために、民間の地場技術開発、生産管理によって高品質な水道用資機材を全国に安定供給する生産体制も欠かせない。その中で、第三者機関のチェックにより、水道事業者が安心して資機材を調達できる日水協の検査事業は、その信頼確保を支えてきた。日水協検査工場のものづくり体制と検査事業、昨今の災害時への備えなどについて語り合っていた。

情報共有で品質向上に 検査への信頼に込めて

「ここ数年で急激に受注が伸びているところ。運転免許制度改正に合わせて車両の総重量設計や、寒冷地でも配管が凍って水が出ないということがない車両づくりなど、さまざまなニーズに合致した製品開発に取り組んでいるところです。前田(城北工業) 当社はいわゆる塗装屋で、粉体塗装をいち早く取り入れて、水道関係のバルブや直管の内面塗装に携わっています。品質に関しては昨今水道に限らずお客さまからの要求が厳しくなっています。塗膜厚などは数値データで出せるのですが、測る箇所が1つずれるだけで、簡単に数値が変わりますし、ピンホールに関することもピンホール

品質に関する情報は、社内だけでなく、お客様からも積極的に共有されています。また、お客様からの問い合わせには、迅速に対応できるように努めています。品質に関する情報は、社内だけでなく、お客様からも積極的に共有されています。また、お客様からの問い合わせには、迅速に対応できるように努めています。

探知機を全面に当てれば
確実なのですが、そうす
るといつまで経っても製
品が出荷できないことにな
ってしまいます。

そこで、一般的にガン
で吹く静電塗装法以外
に、粉体塗装には古くか
らある流動浸漬法を見直
しているところだ。流動
浸漬法は簡単に言うと
「ぶくぶく」で、熱と時
間の管理だけで個体の品
質差が非常に大きい。塗
装方法で、最近では流動
浸漬法で塗装した後に、
塗膜の薄い部分にガンで
追い吹きしています。品
質のぶれが抑えられたこ
とで、全数検査を抜き取り
検査にできるようになり
ましたし、工程時間も短
くなるメリットがあります。

またガンで吹く際に、
人間が動いて吹き付ける
のではなく、ガンを固定
して製品を一定のスピー
ドで回すことで塗装する
方法も取り入れていま
す。要は人間の勘に頼ら
ず吹き付けることで品質
を安定させて、検査時間
の短縮にもつなげようとい
うものです。

この他にも、塗膜の硬
化判定も独自に検査して
います。塗膜片を採取し
て、塗膜のゲル分率とい
う数値で硬化状況を判断
する方法なのですが、こ

うした分析方法も取り入
れて、品質維持に努めて
います。

一方で、見た目の仕上
がり品質もチェックされ
るようになってきました。
新車を購入した際、
車体塗装に曇りがあった
らクレームを入れると思
いますが、それと同じよ
うな感覚であり、検査す
る人の主観で判断される
ため、非常に苦慮してい
るところです。

龍(トリス) 当社は道
路内や敷地内に埋設され
る水道資機材を守るため
の鉄蓋などを製造してい
るメーカーです。良質で
高品質なものづくりを維
持していくために、まず
社員教育を徹底していま
す。生産ラインで工程異
常があれば、教育し直す
など現場教育はもちろん
ですが、教育訓練PDC
A表を活用しながら、1
年間を四半期に分けて社
員教育を実施しており、
安定的かつ良質な製品つ
くりをモットーに、品質
意識の高揚と技術の向上
を図っています。

鋳物に関してはJIS
規格に則り、得られた数
値データを日々管理しな
がら安定品質の確保に努
めています。また、現場
では毎月の品質管理委員
会で各種データに基づき
自社の品質レベルを確認
しています。あらかじめ定
められた方式で抜き取っ
て検査を行い、その結果
を判定基準と比較して、
ロットという集まりごと
に合格か不合格かを判定
しているのですが、年間
約3万ロットの検査のう
ち、不幸にも不合格(ロ
ットアウト)が15〜30ロ
ット、平均で1〜700ロ
ットに1ロットの割合で
発生しています。

ロットアウトの要因と
して最も多いのがピンホ
ールや塗膜厚の不足で、
それ以外にも、形状寸法
が許容誤差を超えていた
り、耐圧試験で漏れてし
まう場合もあります。最
近までの14年間に3回以
上ロットアウトがあった
工場については、その情
報を共有して、製品品質
の向上につなげていただ
けにと取り組んでいると
ころです。工場側もロッ
トアウトになる要因がわ
かれば、より注意深く対
応できると思います。ま
だ始めたばかりの取組み
ですが、当協会が持つて
いるデータも工場での品
質管理に寄与する貴重な
データだと思えます。

し、さらに工場設備につ
いて専門技術者による日
常、定期点検を実施し、
老朽設備を計画的に更新
することで品質なものつ
くりを追求しています。

塗装に関してのお話があ
りました。以前は浸漬
法を用いて、手作業・自然
乾燥で行っていましたが、
平成11年から電着塗
装設備を導入し安定した
塗装を確保しています。

河野(西川崎興産) 当
社は、浄水場ろ過池のろ
過砂やろ過砂利などをメ
インに生産している水道
用材メーカーです。福
岡県と島根県の2カ所に
工場を所有し、敷地面積
として福岡工場が6万6
000平方メートル、島根工場
が3万3000平方メートル
の広大な敷地を所有してお
り、安定的な製品供給が
できるように3年分の原
材料を保有しています。

良質で安全なる材を提
供するため、島根県の一
級河川となる江の川より
砂・砂利の採取許可をい
ただいており、国内産の
良質な原材料を確保して
います。洗浄水に関して
は清澄で豊富な地下水を
使用し、全工場77基の
洗浄・選別プラントがあ
り、いずれも高い効率
良く生産できるトロンメ
ル方式を採用していま
す。この方式は円柱形に

で、少しずつオープンに
していきたくと考えてい
ます。これからも皆さん
とお互いに技術を高めあ
いながら、より信頼でき
る製品を出していけるよ
う努めてまいります。

——人づくりについ
て、追加で紹介いただい
たところがあれば。

前田 いわゆる閑散期
には、塗料メーカーや塗
装機メーカーの技術者を
講師に招いて、勉強会を
開いています。塗装機も
最近さまざま機能が付
くようになり、便利な機
能があれば教えてもらっ
て、より良いものづくり
に生かそうとしています。

それと客先の工場見学
も行っています。製造や
機械加工の現場を見せて
もらっているのですが、
部品としての前後のつな
がりやわかっていないこ
とで、例えばこの部分の塗
装は厚くなるとはダメだ
とか、ガンの向け方を委
えなければならぬとい
か、細かなことで気づ
きが得られます。このよ
うに組み立てられて製

強み生かし給水車注力 検査工場の看板大きく

川崎氏

業界に来ていたばかりの若
手が少なくなっている
中、若手にもつなぐの
面白さを知ってもらおう
ことが大事です。厳しいお
師匠さんがいて、多くの
弟子を育てたというのは
貴重なお話で、きくと厳
しきの中に優しさもあつ
たのだらうと思います。

当協会が工場で行う製
品検査は抜き取り検査を
基本としています。一
定割合で不合格が発生し

「品ができてくるのかを
知ることが、より幅広く
対応できる状況になりま
す。」

工場見学は、工場の現
場作業員だけではなく、
事務員も電話で聞かれた
時に簡単なご説明は
答えられるようにしてい
たいという思いから社員を
対象で行っています。お
客さまに工場見学をお願
いすると、皆さん快くお
引き受けくださり、大変
ありがたいですね。

河野 人材育成に関し
ては情報共有を重視して
います。工場や営業所ご
とにさまざまな問題が起
きやすいと思いますが、ソ
フトを使って情報をすべ
て共有することで、全社の
に改善を行うことも、
個々のレベルも上げよう
としています。

また、砂や砂利を袋詰
めしてトラックに積み込
む際に識別票を使った
り、複数の人間でダブル
チェックするなど、手違
いを防ぐ取組みも大切で
すが、パット見て「これ
は急用の砂だな」「こ
れくらいは砂だな」とわ
かる感覚を身に付けるこ
とが大事です。入社した
てはわからなくても、工
場で砂に毎日触っている

方法はわからないといっ
た問い合わせに、24時間
態勢で直接答えられる電
話回線を用意していま
す。

水道の本管関係に関し
ては、押輪や異形管関係
について非常時の供給契
約を個別事業体と結ばせ
ていただいています。K
形に関しては需要がほと
んどないのですが、災害
時にはどうしても欠損が
出ますので、ある程度の
数量は在庫としてストッ
クしている状況です。

前田 東日本大震災で
は当社工場もかなり揺れ
ましたが、震災対策の観
点から粉体塗装の熱源に
はバルク式の貯蔵ガスタ
ンクを使用しています。

工業団地には都市ガスも
引かれていますし、都市
ガスの方がコストも安い
のですが、大規模災害が
いざ起きた時にガスのパ
イプラインが被災する
と、工場をいつ復旧でき
るかわかりません。タン
クローリーでガス配管す
るのであれば、工場内の
配管類の点検だけを済ま
せばすぐに再開できます
から、即時の生産体制を
重視してバルク式にして
います。

東日本大震災の時に

と、見た目や粒の揃い具
合などからだんだんわか
ってきます。その感覚を
養ってこそ、間違えのな
いものづくり、製品出荷
につながりますので、こ
れまでもそうですが、人
づかりには力を入れてい
るつもりです。

■ 日水協検査事業の役
割と意義

— 続けて、日水協の
検査事業についてお聞き
したいのですが。

平本 当協会の組織そ
のものは昭和7年の設立
と長い歴史を持ってい
て、検査事業もその3年
後の昭和10年から開始し
て今年85年目を迎えま
す。検査事業が始まる以
前は、事業体が発注する
と、事業体の検査職員が
工場まで行って検査し、
工場まで行って検査し、
また大きな事業体では検
査のための専門の機械を
自前で用意するなど直営
で行っていました。工場
側も全事業体が個々に
検査に入れば、その対応
だけで大変ですし、双方
にとって時間的、経済的
にも負担となっていました。
そこで、当協会が共通
の基準で製品を検査す
ることで効率化を図って
ほしいとの要望が出て、

感覚養う人づくりに 認証登録で意識向上にも

河野氏

始まったのがこの検査事
業です。

おかげさまで今年度も
337カ所が検査工場に
登録いただき、全国各地
で水道用資機材を製造し
ています。各工場からの
検査申込みに速やかに対
応できるように、全国5カ
所に検査事業所を設置
し、北海道などそれ以外
の地域にも15の地方駐在
に職員を配置して、迅速
かつ効率的に検査が行え
るよう体制を整えています。

現在の検査員は、約半
数が協会業務に長く従事
するプロパー職員で、残
りは事業体を退職された
OBです。事業体で活躍
された方々は水道技術者
ですから、配水管の設計
・工事現場や浄水場など
の建設・維持管理のプロ
ではありませんが、検査業
務については現役時代に
関わった経験は少ないの
で、プロパーのベテラン
職員が付いた定期的な教
育・研修に力を入れてい
ます。

水道用資機材の検査事
業ですが、最近下げ止
まっているものの、20年
前に比べて半分まで減っ
ています。この間、20
0人だった検査職員を1
34人まで減員すると
も、事業体OB職員を
積極的に活用している
ことです。また、ベテラ
ンのプロパー職員の技術
・技能をどう引き継いで
いくかは検査レベルの
維持向上に関わってきま
すので、業務の効率化だ
けではなく、経験と技術
を持つベテラン職員によ
る若手職員へのOJTに
も計画的に取り組んでい
ます。

さらに、全国5カ所の
検査事業所と、東京本部
大阪支所とで議論しなが
ら、事業所間で差が出な
いよう、かつ少数精鋭の
組織づくりを目指し、統
一した人材育成プログラ
ムを作成して運用してい
ます。各検査事業所で独
自に工夫した内容も、研
修などの場で情報共有す
るなどして、組織のレベ
ルアップにつなげている
つもりです。

— 時代に合わせて検
査体制も見直している
と。

平本 皆さんのお話を
聞いても、新しい技術を
先進的に取り入れ、生産
性の向上につなげていま
すし、技術革新のスピー
ドも非常に早く新しい製
品が出てきています。当
協会としても、検査事業
量の変化に合わせた体制
づくりに取り組みなが
ら、人材育成も含めて検
査のレベルアップに努め
ているつもりです。

— それでは日水協の
検査事業の意義などにつ
いて、各社からお願いし
ます。

河野 新潟の当社工場
には、長岡から週1回検
査に来ていただき、いろ
いろ指導もいただいで
います。

認証登録以前から、当
社はろ材を60年近くの長
きにわたり製造し続けて
きた自負もあり、検査も
絶対の自信を持っていま
す。

品質徹底で短納期化
他業界から関心・信頼も

前田氏

教育訓練で技術向上 納入迅速化とコスト減を

龍氏

の分散化により、お客さま
に安定的に製品を供給
できる体制作りが重要
で、確かな品質、技術を
持ったパートナーを開拓
する必要がありますと思っ
ています。また営業部門に
ついて、どこかが被災
しても他の部署からパッ
クアップできるようにす
ることも大事です。社員
の質の向上としては、品
質管理推進責任者講習会
の受講を技術部門に限ら
ず、営業、資材部門まで
広げ、サービスの品質管
理に力を入れています。

製品づくりに関しては
ですが、他業種とのコラボ
レーションで、IoTある
いはIoTのソリューション
を開発に取り組んでい
ます。例えば、ICタグ
等を鉄蓋に内蔵させて埋
設されている資機材の情
報を取り入れることで、

災害からの早期復旧につ
なげたり、マッピングシ
ステムと連携することで
日常の維持管理にも利
用いただけると考えてい
ます。

河野 当社の福岡工場
は平成17年に福岡西方沖
地震を経験しましたが、
震源地から約10キロと近
く、場所が砂地であった
こともあり、液状化の被
害を受けて地震に対する
弱さが露呈しました。そ
のため、工場内の池には
シートパイルを打って、
池の近くにあった事務所
や駐車場も池から離れた
ところに移動しました。

洗浄プラントなど工
場建物も定期点検を行
い、異常があればすぐに
対応するようにしていま
す。

また、工場が九州、中
国地区なので台風の影響
が強いまま直撃すること
も多々あることから、原
材料・製品の飛散防止と
してシート養生を行って
いますし、一部の原材料
は地下に埋めて飛ばない

ですが、試験機器一つと
っても要求精度に達して
いないものがあつたり、
高温乾燥機などの必要機
器が準備できていなかっ
たり、自社流でやってき
たことを指摘されたり
と、認証登録品という厳
しさを思い知るようにな
りました。

やはり日本水道協会の
検査事業により、水道用
ろ材に求められる基準適
合性について、厳正かつ
公正に検査された安全で
高品質な水道用ろ材をお
客さまに供給すること、
そしてこの認証制度をも
っと普及させて気軽に調
達していただけることが
重要だと考えています。

龍 日本水道協会検査
合格品はユーザーからの
信頼性が高く、当社もそ
の検査を受けていること
に誇りを持っています。

検査工場の認定は昭和56
年に受けましたが、数多
くの特許を取得して製造
してきた特殊な鉄蓋や弁
筐は、実際の性能品質に
ついて第三者機関である

が起きるとその日のうち
に連絡が入り、一日日ま
でに何本持つてきて」と
注文があります。配管の
ストックヤードは北海道
から九州まで全国7カ所
にあり、どこからでも配
管をお届けできる体制を
整えています。製造は自
社で行っており、新潟の
本社工場と北海道内の2
カ所あり、両工場が同時
に被災することはないと
いうから、生産のパッ
クアップは取れていると
思っています。

事業自体が災害を想定
しているため、社員は地
震などのニュースが入る
と、現場の営業マン、工
場あるいは物流拠点の社
員と自主的に連絡を取り
合っています。當日頃か
ら災害現場に行くことも
多いので、社員全員が緊
張感を持って仕事に当た
っているのは大きいと思
います。

一つ課題を挙げるとす
れば、資材の流通状況や
顧客情報などの管理シス
テムです。いざという時
使えないことがあつては
ならないので、バックア
ップも含めた対策を講じ
ているつもりです。

平本 緊急時の材料供
給や生産体制のバックア

生産・配送で全国網羅 技術継承と自主的改善が

関根氏

は、空気弁1個だけ大至
急手かけてほしい、それ
があればこの配水系統を
復旧できるから」といっ
た短納期の注文が多く来
ました。ただ、災害復旧
だから、短納期だから検
査しなくていいとはなり
ませんから、検査まで含
めた納期をどう短くする
のかについて知恵を絞っ
ているつもりです。何か
特別なことをするのでな
く、各工程から次工程
に手渡すまでに、いかに
品質をつくり込むかとい
うことで、それを極限ま
で徹底させています。そ
うすることで、製品の完
成段階で検査する項目が
非常に少なくなり、短納
期に対応できています。

実は今、繁忙期なので
すが、お客さまから月曜
日に連絡が入り、木曜日
に製品を納めてほしいと
の急な依頼がありまし
た。当然、検査も受けな
ければなりません。日
本水道協会の検査員の方
には無理を言っていて、火曜
日に来られたばかりなの
場、外注場による生産

日本水道協会の検査を受け、検査合格品として出荷されることで大きな成果を上げることができました。月平均で2回ほど立会い検査を受けていますが、製品納入の迅速化を図られ、コスト削減にも貢献していると認識しています。

現在では政令市はもちろんで、それに準じた都市でも、検査刻印がないと製品の使用許可が下りませんし、厳しく検査してもらっています。私も営業職でかなり以前に、検査に立ち会ったことがありますが、担当営業または新入社員を育成する良い機会として研修の一環として立ち会わせているというのです。

前田 立会いを週1、2回の頻度で受ける検査態勢になってから25年ほど経ちますが、自社で完結しているというつもりもなおりになりがちで、膜厚計やピンホール探知機の校正作業に意識が向くようになりま。正確なデータを取ることが確かな製品供給の基本です。し、第三者の検査を受けるという。他に比べてはるかに高い精度でものづくりができていていると思う

ています。

また、当社は従業員数30人ほどの小規模な会社なので、管理部門にあまり人員を割けないのですが、日本水道協会の検査はコストも含めて特別かかるわけではないです。他業界の方が工場に來られて日本水道協会検査工場の看板を見ると興味を持たれるのです。それで「皆さんが蛇口から水を飲む時に、その通路になっている部分はすべて日本水道協会検査工場をつくっているのですよ」と説明すると、それで信頼されます。当社もその信頼に応えるべく、常に品質を意識しているというのです。

川崎 当社はテストピースによる引張試験、鋳物の素材検査、塗装検査について、日本水道協会の検査を受けています。が、ピンホールや膜厚の検査機はアジャストが抜けてしまうことがあり、社内にチェックがどうしても緩くなってしまうところを指導いただいた大変助かっています。また、冒頭お話ししましたが、日本水道協会検査工場という看板は非常に大きいです。給水車

については仕様書検査があつて、事業体の方が工場に來られるのですが、検査工場であることで安心していただいています。当社には配管技能士など配管技術者もいますので、車両メーカーにはない水道の専門メーカーであることの信頼感も感じていただいています。

■自然災害への備えと製品供給体制

—— 続いているテーマに移りますが、昨年も台風など自然災害が相次ぎました。こうした自然災害に備えた製品の供給体制、ものづくりの取組みについてご紹介ください。

川崎 自然災害に限らず、平日頃からの即応体制が基本です。東日本大震災や熊本地震、最近ですと台風による豪雨災害の時には、被災地のお手伝いをしていますし、今まで納品したものに對するフォロワー体制も整えています。給水車を納入する際には取扱いをしつかり説明させていただいたのですが、被災現場へ行くと意外と別な方が給水車を扱っている場合が多いのです。そのため、使用

などによる電力のバックアップや、取水施設などの浸水対策、施設への防水壁の設置などの取組みが求められているところ

です。当協会においては、災害時でも浄水場などへの凝集剤や活性炭、次亜塩素酸ナトリウムなどの供給が途絶えることがないよう、検査あるいは認証事業で培った信頼関係から日本無機薬品協会などと災害協定を結び、事業体からの要請があれば、すぐに対応するようにしています。さらに、災害復旧などで資機材を確保する必要があれば、資機材メーカーへ資材調達状況などの調査・依頼も行っていきます。

■より良い製品提供に向けて

一昨年前には北海道胆振東部地震が発生し、首都直下地震が今後30年の間に70%の確率で起こるとされ、南海トラフで想定されるM8.9クラスの巨大地震も非常に高い確率で起きるとなっています。一方で、昨年は台風15号で千葉県を中心に長期間の広域停電が発生し、19号では豪雨・土砂災害で東日本を中心に被災し、大規模な断水が発生しました。

こうした自然災害に備えるために、事業体では水道施設の耐震化とともに、自家発電設備の設置

事業体の経営が厳しいこともあつて、なかなか更新が進んでいませんが、改正水道法を踏まえた事業の基盤強化、そのための適切な資産管理、長期的な観点からの施設の計画的な更新に努めなければならぬとされています。

令和という新しい時代に、水道界としても更新・耐震化事業がスピードアップした時に対応できるように、高品質な資機材を供給する体制を整えておくことが大事です。その際に当協会検査事業としては、事業体や工事業者が検査合格品だから安心して使用していただける、その検査に対する信頼が最も重要で、その責務は大変重たいと考えています。

そのためには、職員の検査技術や力量の維持向上を図り、検査を通して、より良い品質の製品を提供できるよう努め、皆さま方とも協力しながら水道界全体を支えていきたいと思つています。今後とも当協会検査業務へのご協力、忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。